



初等部だより 3月号

鎌倉女子大学初等部

令和6年2月29日

第13号

もうすぐ卒業式

部長 勝木 茂

岩瀬キャンパスの梅の花も咲きはじめ、少しずつ日脚が伸びて来ることに、春の気配を感じる頃となりました。

3月(弥生)、卒業式は13日(水)、修了式は19日(火)、本年度も残り1か月となりました。



先週2月21日(水)に6年生を引率して「卒業研修」に行っておきました。この行事は、概ね3学期に、社会科の学習を兼ねて「最高裁判所」「国会議事堂」等の見学を行っているものです。6年生としては、卒業式を目前にひかえた最後の行事となります。今年は、昼食後に「科学技術館」も見学するため、バスでの出発を早朝7時15分としました。少し早かったのですが、6年生は元気に集合していました。見学や体験が予定通り終了した帰路のバス、交通渋滞もあまりなく、もうすぐ初等部に着きそうという時、何人もの子どもたちが「もう、着いちゃうの」「渋滞しないかな」と、みんなで一緒のバスの中をなごり惜しく感じているようでした。

さて、3月13日(水)はいよいよ卒業式です。卒業式は、一番大切な、そして一番大きな学校行事です。今年度は、全ての学校行事をほぼコロナ禍前の状態に戻しており、初等部生全員が一堂に会しての卒業式となります。卒業式は、小学校学習指導要領によれば、

儀式的行事に位置付けられ、その内容は「学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと」となっており、指導方針として、「厳粛な雰囲気の中にも、明るい希望に満ちたものとなるようにする。」となっています。(下線部引用)

また、初等部における「卒業式」の目標は次のようになっています。

- 卒業生一人一人が、卒業の喜びを味わうとともに、中学進学への希望をもち、今までお世話になっ方々への感謝の気持ちと鎌倉女子大学初等部への愛校の念を抱き、将来への心構えがもてるようにする。
- 在校生は、卒業生に感謝の気持ちを持ち、伝統や品位を受け継ぎ、別れを惜しみつつ祝福する気持ちがもてるようにする。
- 式における規律と礼儀の大切さに気付き、気品ある態度がとれるようにする。

振り返れば、入学式、松本講堂の椅子に床に足がとどかず、緊張しながら座っていた今年の6年生、コロナ禍があり、やりたいことも十分には出来なかったこともある中、よくここまで立派に成長してくれました。入学式と卒業式、両方に部長(校長)として出られることは、わたしにとっても大きな喜びです。

6年生は、すでに、卒業を十分に意識しています。卒業式まで残り半月、素晴らしい卒業式になるよう「感謝のこころ」を大切にしつつ、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

保護者の皆様には、本年度も初等部の教育活動にご理解とご協力をいただきましたこと心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。